

# 十三峠

発行責任者  
 越後米沢街道  
 十三峠交流会  
 会長 高橋 純



バードが歩いた同じ日に  
 バードと同じコースを歩く

## イザベラ・バードin十三峠

7/11~13 初めての企画に県内外から24名が参加



第1回イザベラ・バードin十三峠のイベントは多くの後援。協賛をいただき実施するこ

### 次に繋げたいイベント

とができました。一日目は蒸し暑いなか、鷹巣峠と榎木峠を歩き、二日目は大里峠から市野々まで雨の中を28km10時間にも及ぶハードな峠歩きを落伍者もなく歩くことができました。途中で心温まる接待いただきました。

元氣になりました。最終日はバード役馬子役も登場いただきました。お陰さまで大成功であったと思います。第2回目も実施してほしいとのご要望をいただきましたので是非企画したいと思います。

イザベラ・バードin十三峠  
 実行委員長 齋藤 弥輔

平成二十年のツデーウォーク以来、十三峠全体を歩くイベントがなかったのですが、事務局であるNPOここ掘れ和ん話ん探検隊の齋藤弥輔氏が実行委員長となつて、十三峠愛好者が実行委員会を組織して企画実施されました。

2泊3日の峠旅

134年前イザベラ・バードが十三峠を歩いた3日間、この険しい山岳地帯と言わ

しめた十三峠はバードをどのように迎えられたのであろうか、それを感じとることをメインテーマとして、「イザベラ・バードin十三峠」が企画されました。

実行委員会

実行委員長に齋藤弥輔氏副実行委員長には南陽市の鏡正明氏、事務局長には黒沢峠の保科勝見氏が担いました。

支援の輪が広がる

この動きに対して十三峠交流会他多くの組織や団体から支援がありました。

- ・ここ掘れ和ん話ん探検隊
- ・小国町観光協会



平田 関川村長

関川村観光協会  
 飯豊町観光協会  
 ・おぐに白い森(株)  
 ・FELIX  
 ・遠藤畜産  
 ・CONNECT

県内外から24名参加

当初20名に参加いただければ十分と決めて、募集に取り組んだが横浜市をはじめ宮城県や福島県からの参加も含めて最終的には24名の参加をいただきました。

平田村長の健脚

特に新潟県関川村平田村長からは初日の夜の交流も含めて二日目まで同行いただきました。また所要所での懇切ていねいな説明をいただきました。78歳、その健脚ぶりに一同驚きました。今後十三峠の活動を支援いただくこと、快くご了承をいただきました。

「会報十三峠」メール  
 読者を広めて下さい

「会報十三峠」を定期的に発行して参ります。メールにて配信しますので、読んでいただける方や団体をお知らせ下さい。

事務局アドレス  
 kokohorewanwan  
 @opal.plala.or.jp



よみがえったバード

3日目の飯豊町手ノ子宇津峠に牛の乗ったバードが現れました。まさに134年前のバードの旅姿が再現されました。バードに扮した小国町産業振興課の大石紘子さん、馬子として登場していただいた小国町町原の渡部初男さん、沿道では様々な差し入れや声援をいただきました。一人の脱落もなくバードに思いを馳せた3日間の旅が終了しました。